

千代川流域地域

土地分類基本調査

鳥取北部・鳥取南部

5万分の1

国土調査

鳥取県

1975

ま え が き

国土の秩序ある利用を図ることは、人口が周密で土地資源が限られている我が国において緊急かつ重要な課題であるが、その基本的理念は、国土が国民の生活及び生産の共通の基盤であることを念頭に置き、公共の福祉を優先させ、自然環境を損なわず、地域の自然的、社会的及び文化的特性を配慮した均衡ある発展が図られるものでなければならない。

鳥取県は、山陰の中央部に位置し、その地理的、気象的条件から土地利用の発展が遅れていたが、それだけに未利用部分は多く、利用発展の可能性をもっている。この利用発展を具体化するため高速交通体系及び各種産業開発構想等が計画として策定されている。

幸いに国において土地利用に関する具体的な公的プロジェクトのある地域の土地条件を明らかにするために、国土調査法に基づく都道府県土地分類基本調査が設けられているが、これは、土地の利用や規制に関する計画の基礎的な資料を提供するものとなっている。本県としてもこのような情勢に即応して、大山山ろく開発地域の土地分類基本調査として昭和48年度に「赤碓」「大山」（建設省国土地理院発行縮尺5万分の1地形図）を昭和49年度に「青谷」「倉吉」（同図）を実施したのに引き続き「鳥取北部」「鳥取南部」（同図）を国土調査の指定を受け都道府県土地分類基本調査実施大綱及び鳥取県千代川流域地域都道府県土地分類基本調査作業規程に基づき、地形分類図、表層地質図、土壌図、傾斜区分図、水系谷密度図、開発規制図、土地利用現況図の計7図幅を作成した。

今後とも、他の図幅についても逐次実施し、全県下の図幅について作成する予定である。

目 次

まえがき

総 論

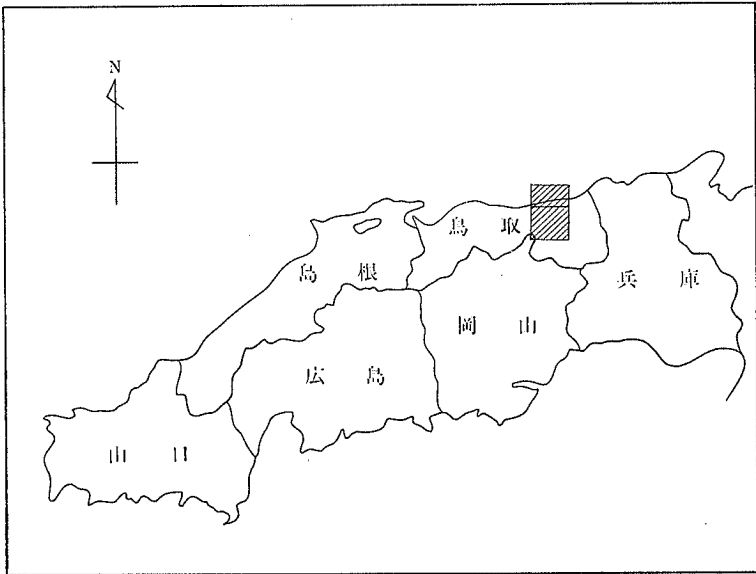
- I 位置・行政区画 1
- II 人 口 2
- III 地域の特性 4
- IV 開発の方向と主な基本計画 8

各 論

- I 地形分類図 11
- II 表層地質図 15
- III 土じょう図 24
- IV 水系谷密度分布図 33
- V 傾斜区分図 34
- VI 開発規制図 35
- VII 土地利用現況図 38

あとがき

位置図



總論

I 位置・行政区画

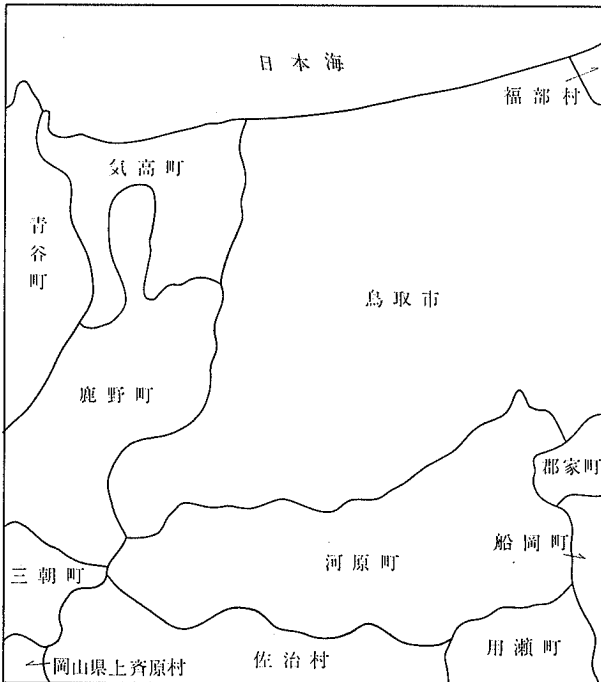
1 位置

「鳥取北部・南部」図幅は北緯35°20'から35°40'まで東経 134°00'から 134°15'までの範囲である。

2 行政区画

本図の行政区画は、第1図のように鳥取市、青谷町、気高町、鹿野町、那家町、船岡町、河原町、用瀬町、三朝町、福部村、佐治村の1市8町2村の他岡山県上斉原村からなる。

第1図 行政区画



Ⅱ 人 口

本地域は鳥取県の東部に当たり、ほぼ全域が鳥取市の経済圏内に入っている。鳥取市は人口約12万で鳥取県東部の経済的中心であるのみならず、県全体の政治的、文化的中心の役割をも果している。人口の動態を第1表によって比較すると、昭和40年から昭和49年にかけて人口総数が増加したのは鳥取市のみで他の町村はすべて減少している。しかし郡部における人口の減少傾向は鎮静化し、昭和46年ころから横ばいに転じる町村もでてきている。また、世帯数は大半の町村で増加し、核家族化、世帯の細分化が進んでいることがわかる。鳥取市における人口の増加をみると、過去2年間は自然増とともに社会増も大幅に人口の増加原因となっている。このことは、都市化や中核的企業の立地などによるものである。今後本地域を活力ある地域社会とするためには、周辺町村の人口減少を食い止めることが必要で、特に若年人口の流出を防ぐための諸施策が実施されなければならない。また、農村部における人口構成の老齢化に留意し、その是正を図る必要がある。

第1表

世帯数、人口、人口移動状況

(県統計課)

区 分		年 次				昭和40年	昭和43年	昭和44年	昭和45年	昭和46年	昭和47年	昭和48年	昭和49年
		世帯	人口	世帯	人口	世帯	人口	世帯	人口	世帯	人口	世帯	人口
鳥取市	移動状況	世帯	26,670	29,426	30,022	32,113	31,256	32,323	33,163	34,000			
		人口	108,860	109,582	110,503	111,258	114,252	115,300	117,276	119,140			
		総自社											
		然会		722		921	755	2,994	1,048	1,976	1,864		
		増				947	874	1,106	1,305	1,227	1,300		
		減				△ 26	△ 119	1,888	△ 257	749	564		
岩美郡	移動状況	世帯	673	679	679	688	697	700	699	705			
		人口	3,515	3,410	3,366	3,358	3,297	3,314	3,281	3,249			
		総自社											
		然会		△ 105	9	△ 8	△ 61	17	△ 33	△ 7	△ 32		
		増			44	13	9	24	7	14			
		減			△ 53	△ 21	△ 70	△ 7	△ 40	△ 46			
気高町	移動状況	世帯	2,173	2,244	2,261	2,290	2,290	2,337	2,333	2,347			
		人口	10,295	10,315	10,189	10,147	9,988	9,889	9,837	9,783			
		総自社											
		然会		20	△ 126	△ 42	△ 159	△ 89	△ 52	△ 54			
		増			28	37	24	36	52	35			
		減			△ 154	△ 79	△ 183	△ 135	△ 104	△ 89			
高野町	移動状況	世帯	1,119	1,100	1,102	1,092	1,101	1,094	1,103	1,091			
		人口	5,312	5,149	5,055	4,951	4,972	4,905	4,864	4,853			
		総自社											
		然会		△ 163	△ 94	△ 104	△ 21	△ 67	△ 41	△ 11			
		増			20	△ 11	△ 1	24	1	17			
		減			△ 114	△ 93	△ 22	△ 91	△ 42	△ 28			
香谷町	移動状況	世帯	2,344	2,310	2,319	2,319	2,371	2,394	2,398	2,420			
		人口	10,658	9,959	9,825	9,635	9,787	9,634	9,586	9,381			
		総自社											
		然会		△ 699	△ 134	△ 190	152	△ 153	△ 48	△ 205			
		増			11	7	8	4	42	32			
		減			△ 145	△ 197	144	△ 157	△ 90	△ 237			
那家町	移動状況	世帯	2,144	2,175	2,181	2,173	2,172	2,199	2,209	2,241			
		人口	10,391	9,973	9,061	9,761	9,788	9,762	9,647	9,678			
		総自社											
		然会		△ 418	△ 109	△ 103	27	△ 26	△ 115	△ 31			
		増			46	19	40	49	11	42			
		減			△ 155	△ 122	△ 13	△ 74	△ 164	△ 11			
船岡町	移動状況	世帯	1,141	1,146	1,139	1,136	1,149	1,150	1,156	1,156			
		人口	5,612	5,525	5,417	5,291	5,198	5,120	5,063	5,034			
		総自社											
		然会		△ 87	△ 108	△ 126	△ 93	△ 78	△ 57	△ 29			
		増			18	7	△ 12	△ 12	9	22			
		減			△ 126	△ 133	△ 81	△ 66	△ 66	△ 51			
河原町	移動状況	世帯	2,112	2,108	2,108	2,086	2,126	2,131	2,138	2,154			
		人口	10,437	9,901	9,791	9,624	9,669	9,552	9,467	9,351			
		総自社											
		然会		△ 536	△ 110	△ 167	45	△ 117	△ 85	△ 116			
		増			8	△ 3	29	10	9	12			
		減			△ 118	△ 164	16	△ 127	△ 94	△ 128			
用瀬町	移動状況	世帯	1,212	1,212	1,197	1,186	1,221	1,213	1,206	1,204			
		人口	5,662	5,239	5,180	5,054	5,189	5,068	5,024	4,988			
		総自社											
		然会		△ 423	△ 59	△ 126	135	△ 121	△ 44	△ 36			
		増			△ 3	△ 17	△ 12	5	20	6			
		減			△ 56	△ 109	△ 147	△ 126	△ 64	△ 42			
佐治村	移動状況	世帯	962	952	959	954	954	949	950	946			
		人口	4,461	4,268	4,182	4,131	3,961	3,880	3,872	3,842			
		総自社											
		然会		△ 193	△ 86	△ 51	△ 170	△ 81	△ 8	△ 30			
		増			4	△ 2	△ 9	△ 14	14	41			
		減			△ 90	△ 53	△ 161	△ 67	△ 22	△ 26			
三朝町	移動状況	世帯	2,257	2,312	2,375	2,366	2,369	2,360	2,385	2,359			
		人口	10,005	9,507	9,490	9,324	9,056	8,964	8,953	8,832			
		総自社											
		然会		△ 498	△ 17	△ 166	△ 268	△ 92	△ 11	△ 121			
		増			30	8	△ 8	31	34	4			
		減			△ 47	△ 174	△ 260	△ 123	△ 45	△ 117			

Ⅲ 地 域 の 特 性

1 自然的特性

本地域の山地は、かなり起伏も大きく傾斜も急な壮年山地型のものが卓越している反面、山陰では大きな平野である鳥取平野を有している。山地は古生層の変成岩や第三紀の火山岩・堆積岩が広い面積を占め、森林の生育が良好である。海岸線は砂浜型の単調な海岸で局所的に岩礁地帯が散見されるにすぎない。このため沿岸の海底は砂質であり、陸地は砂丘が発達している。

気候的には曇天・雨天の多い山陰型気候であり、特に冬季の積雪量が相当著しい。風向は冬季は西北風が卓越する。次いで東北風、南風が多い。春先にはフェーン現象が多い。

2 歴史的特性

本地域の山ろく部や平野は開発の歴史が古く、先史時代の遺跡も数多く分布している。縄文遺跡としては浜坂砂丘内の各地や湖山池内の青島が古くから知られている。弥生遺跡は鳥取市立川遺跡のように沖積平野面下の低湿な場所にも立地している。古墳時代の遺跡は非常に多く、台地や山ろく地の上に数多く古墳が分布している。

古墳の密集地帯としては霊石山北ろくの第三紀丘陵地帯、湖山池南方の丘陵、気高町の丘陵などが代表的で沖積平野に接した山地、丘陵地・台地に相当している。また砂丘地にもかなり多くの古墳が知られている。浜坂砂丘の赤坂官林、開地谷、浜坂スリバチ付近、栃木山横穴古墳（消滅）などや白兔の身干山砂丘、室木高浜砂丘などに代表的な古墳・石棺が存在している。古墳時代の遺物・遺構は沖積平野にもみられ、鳥取平野では千代川の自然堤防下に出土する秋里祭祀遺跡や水田面下1～2mに存在する岩吉遺跡などが代表的である。条里遺構も鳥取平野に良好に保存されているほか、気高町・鹿野町の沖積平野の一部にも推定されており、平野の開発はかなり古い時代から行われてきたことがわかる。更に荘園も置かれ平野や台地の開発が進んだ。中世以後山城が各地に築かれた。

鳥取市は、久松山に築かれた城を核として、低湿な平地を埋め立てて形成された城下町である。鳥取平野は洪水による災害をしばしば受けたので、千代川の制御や利水等の土木事業が、鳥取藩・鹿野藩の重要な関心事であった。亀井候による大井手用水事業

は、その代表的成果である。

3 社会，経済的特性

(1) 農 業

鳥取平野は主要な米作地帯である。また、平野を囲む山地や台地の斜面には二十世紀なしやかきなどの果樹園が分布する。一方砂丘地帯の開発は近世以後であるが、近郊農業として、そさいの栽培が行われるほかタバコ・ラッキョウなども大規模に営農されるように変貌した。

鳥取平野を中心とする農業経営の性格をみると、約2万戸の農家数のうち81%が兼業農家であり、しかもそのうち61%が兼業を主とする第2種兼業農家となっている。また、全農家の98.9%が2ヘクタール未満であり、75%が1ヘクタール未満の経営面積を持つ零細農家である（昭和45年）兼業化の結果農家1戸当たりの所得の65%は農外所得によって支えられていると考えられる。

(2) 林業及び水産業

図葉南部の用瀬町や佐治村の山地は鳥取県東部の林業地帯であり、スギ・ヒノキなどの美林が分布し、山間地の集落は林業依存の度合いが強い。

水産業は鳥取市賀露漁協，気高町酒津，浜村，青谷町夏泊，青谷の5漁協によって営まれている。総数628人でこのうち正組合員が8割を占める（昭和48年調）。賀露漁協では、沖合底引き網漁業がみられるほかすべて沿岸漁業者で構成されている。生産額は8,500t 17億円強で、うち沿岸漁業は1,600t，4.7億円を占めている。

本海域は砂質の平たんな海底である。漁場は年間を通じて水深100m以浅の海域に集中し、小型底引きの占める割合が高い。漁種はいか、とびうお、しいらなどの浮魚とひらめ、かれい、かになどの底魚が代表的である。漁業の生産性を高めるためには砂質海底の改良や漁礁造成なども必要である。また、内水面漁業としては、湖山池の淡水漁業や千代川のアユ漁がある。

(3) 鉱・工 業

本地域の伝統産業としては、佐治村や青谷町目置谷流域の因州和紙生産や鳥取市津ノ井や河原町牛戸における窯業などがあげられるが、小規模なものである。

繊維産業，家具製造，食品工業などは戦前から盛んであったが、昭和35年以後急速に県外企業の進出や県内企業の団地化が目立ってきた。特に鳥取三洋電機以下の電気

機器製造業と金属機械製造業の進出は目覚ましい。また、縫製・衣服製造業も著しく増加した。この結果、昭和45年の工業出荷額は708億円と全県の42%を占め、中海地区をしのいでいる。

(4) 観 光

本地域には鳥取砂丘で代表される山陰海岸国立公園が図葉東北部にみられるほか、最近氷ノ山那岐山後山国定公園に編入されることが決まった佐治村北谷地区や河原町三滝溪など極めて優れた自然に恵まれている。

また、鳥取温泉・吉岡温泉・浜村温泉などの温泉もあり、観光資源はかなり豊富であるから、これをいかに活用していくかが今後の課題である。

(5) 統計資料

本図葉に係る市町村の就業構造と産業別事業所数・販売・出荷額を記すと第2表、第3表のとおりである。

第 2 表 就 業 構 造 昭 和 45 年 国 勢 調 査

市町村名 区 分	就 業 構 造										
	鳥取市	岩美郡				八 頭 郡				東伯郡	
	福部村	気高町	鹿野町	青谷町	郡家町	船岡町	河原町	用瀬町	佐治村	三朝町	
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
農 業	9,291	970	2,029	1,299	2,026	2,351	1,257	2,620	938	850	1,873
林 業	98	—	11	15	22	7	38	59	51	101	154
漁 業	308	55	144	2	122	1	—	2	1	—	4
飼 養 業	28	—	3	1	5	—	3	4	22	1	15
設 置 業	3,563	74	369	233	389	414	217	489	181	202	384
製 造 業	12,020	266	1,119	492	1,455	872	492	902	760	417	511
卸 売 業	11,906	260	664	259	585	611	290	532	315	91	488
金 融 業	1,589	15	47	11	70	51	30	64	27	9	35
不 動 産 業	229	—	4	—	2	13	5	2	5	—	7
運 輸 業	3,484	83	256	129	195	262	110	205	156	50	164
電 気 業	531	7	20	2	5	22	5	7	15	1	37
ガ ス 業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
サ ー ビ ス 業	11,629	197	815	360	679	942	385	696	357	475	1,541
公 務 員	3,104	50	157	72	123	195	83	166	97	51	106
そ の 他	45	4	2	—	—	5	—	—	3	1	1
計	57,825	1,981	5,640	2,875	5,678	5,746	2,915	5,748	2,928	2,249	5,320

第 3 表 産 業 別 事 業 所 数 ・ 販 売 ・ 出 荷 額 等

市町村名 区 分	産 業 別 事 業 所 数 ・ 販 売 ・ 出 荷 額 等										
	鳥取市	岩美郡				八 頭 郡				東伯郡	
	福部村	気高町	鹿野町	青谷町	郡家町	船岡町	河原町	用瀬町	佐治村	三朝町	
事 業 所 数	534	7	49	21	77	37	22	39	25	34	20
工 業 者 数	14,631	120	975	379	1,059	577	285	695	712	371	389
製 造 品 出 荷 額 (100万円)	108,458	648	2,954	1,246	3,147	2,233	884	1,770	3,886	897	1,017
商 店 数	2,988	55	199	100	185	145	72	138	96	45	146
商 業 年 間 販 売 額 (100万円)	207,131	1,733	2,577	690	1,809	1,364	546	1,531	1,047	416	1,918
農 家 数	5,930	584	1,214	770	1,378	1,458	809	1,540	663	683	1,368
(専 業)	380	62	167	81	161	147	67	147	38	41	132
(兼 業)	5,550	522	1,047	689	1,217	1,311	742	1,393	625	642	1,236
生 産 農 業 所 得 (100万円)	3,211	469	739	385	712	1,096	439	895	300	421	650
耕 地 面 積 総 数 (ha)	4,650	582	1,030	601	892	1,290	613	1,270	454	505	1,160
田	3,837	322	804	529	575	978	469	889	316	233	838
畑	813	260	226	72	317	312	144	381	138	272	322

昭和49年工業統計調査
 昭和49年商業統計調査
 昭和48～49農林水産統計

Ⅳ 開発の方向と主な基本計画

1 農 業

平野部においては農地の基盤整備がすすめられており、区画整理、ほ場整備、農道建設などが昭和40年代において著しく進行した。また、大型農業機械の導入や諸施設の建設も平行して行われ、水稲作の高度集団化がすすめられてきたが今後一層の発展が必要である。

山ろく地帯、中山間部では水稲作の基盤整備をすすめると共に20世紀なし・かき・くりなどの適地における生産の増大を図るとともに、草地造成によって大家畜の多頭飼育を進めるほか、チューリップ等の球根栽培の団地造成を図っている。

砂丘地は農業開発が遅れた地域で、江戸時代末期より砂防造林や開拓がすすめられた・かんしょが生産されたが、明治中期より養蚕が導入された。砂丘地の開発にとって重要な要素は水であり、畑地かんがい事業が昭和28年からすすめられた。その結果、浜坂砂丘で45ヘクタール、湖山砂丘で226ヘクタールがかんがいされたばかり、いちご、そさい、ラッキョーなどが栽培され、かなり団地化もすすんできた。今後も団地化をすすめるとともに家畜飼育の団地化も図る。

2 林 業

森林資源の培養を図るため人工造林を推進するとともに森林資源の効率的利用を図るため林道の整備がすすめられてきた。特に図幅南部の中国山地地帯の森林開発のため、大規模林道中国縦貫線の建設が計画されている。また、各種の森道網の整備を図る必要がある。

3 水 産 業

本地域沖の海底は砂丘型であるためその改善が必要で人工漁礁の造成が従来も行われてきた。しかし、大型漁礁をより多く設置するべきである。また、浅海増養殖事業やカレイなど底魚の漁場づくりの試験研究を実施中であるが、大陸棚の効率的利用のための大きな投資が必要である。沿岸漁港の整備も平行してすすめるべきである。

4 工 業

本地域は電気機器、機械金属製造などの内陸型工業が既に立地しており、今後も同様の型の企業の導入を図る。また、臨海部には鳥取港の整備と関連させて木材関連産業の

導入を図る。

5 観 光 開 発

本地域内の優れた観光資源の特性を活かした観光地域の整備を図るとともに湖山池から青谷にかけての優れた湖岸・海岸の景観を活用した大規模レクリエーション基地を造成し、広域的な保養の場とする。

6 交 通 体 系

本地域は東西に国道9号線が延び、南北方向に国道29号及び国道53号線があり主要交通路を形成する。しかし、自動車交通量の増大に対処するため、更に道路の整備が必要である。1975年中国縦貫自動車道の開設をみたが、この縦貫道につなぐ横断道の新規造成が要請される。

通過交通によって鳥取の市街地内は交通の渋滞に悩まされているが、これを解決するため、バイパス線が計画されている。鉄道については、時間、距離を飛躍的に短縮する山陰新幹線の建設を検討しつつあり、これを補充する在来線の充実（電化・複線化・高架化）を図ることとしている。

なお、鳥取空港の整備充実や鳥取港を改めて大型船の岸壁を備えた「鳥取新港」の建設を計画している。

7 環 境 問 題

本地域は図案南部にブナなどの優れた原生林を有する山地をひかえると共に、国立、国定公園地域が分布し自然景観に恵まれている。これらの自然を保全するとともに、都市近郊の緑の確保も図ることとしている。

また、千代川、湖山池等の公共用水域も水質保全の見地から、水質調査を実施し汚濁防止をすすめる。また、鳥取市においては、下水道施設の整備がかなり進行しているが、これを更にすすめる必要がある。

(鳥取大学 文部教官 豊島 吉則)

各 論

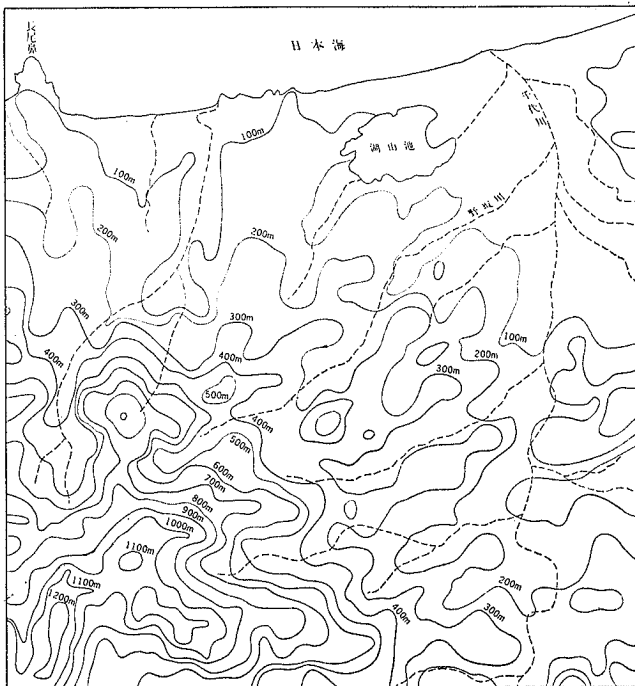
Ⅰ 地形分類図

Ⅰ 地形概説

本地域は図葉西南部に三国山(1252m)、高鉢山(1204m)、高山(1054m)などの1000mを越す山地があって中国山脈の一部をなし、北方や北東方に次第に高度を低下する地勢を示している。その地形の概要は接峰面図で大観することができる。

第2図の接峰面図は、5万分の1地形図を1km方眼に細分し、その方眼の最高点をデータとして画いたものである。これによっても図葉西南部の山地から次第に山地高度が低くなる地形がうかがわれる。高山・高鉢山付近の山地は海拔400mから1200mの高さをもつ起伏の大きな地形が分布している。海拔400m以下の山地は主に小起伏山地や山ろく地であり広大な面積を占めて分布する。

第2図 接峰面図



図葉西南の中津から長尾鼻にかけても緩やかな地形がみられるが、これは溶岩台地地形である。

2 地形細説

2-1 山地

本地域の山地のうち中起伏山地は、鷲峰山・高山・高鉢山三国山を含んだ広い山地を形成している。これらの山地は中国山地の背稜部をつくる部分で起伏が大きく、特に高山・高鉢山は大起伏山地としてもよい山地である。

山地の頂部には緩斜面が残存しており、準平原遺物と考えられる。高鉢山東方には海拔1000m以下の広い山頂緩斜面が分布している。また高山東方の弓河内付近にも広い山頂緩斜面が分布している。このような地形は、しばしば安山岩溶岩が被覆しているので安山岩の溶岩台地と考えられるものが多い。毛無山の山頂部の平たん面も溶岩台地であり、岩坪北方の細長い丘陵や靈石山も溶岩台地として説明できる。しかし、溶岩台地面は侵食谷によって開析されたり、細分されメサやビュートになっているものが多い。長尾鼻の溶岩台地は原面が比較的広大に保存されている。

小起伏山地は海拔 400m 以下の山地で、衣笠山山地や河原町・用瀬町周辺の山地に広く分布している。山ろく地は更に北方の沿海地帯に良好に分布する低平な丘陵性の山地である。長尾鼻の展望点から東南を望むと、一見段丘状の山ろく地が広く発達している状況が観察される。

この山ろく地は千代川流域では、河川に沿って細長く分布し、小起伏山地の中に入込んでいる。この山ろく地の山頂部にもしばしば平坦面が残存していて、農地化している。靈石山北方の山ろく地は果樹園として利用されている。

2-2 台地

本地域には高位段丘が各所に分布するが、そのうち最も古期の地形は砂れき台地 (Gt I) である。

これは河原町渡一ツ木や佐貫付近に分布する開析台地で、赤かっ色に風化した砂れき層 (くさりれき) が堆積していることが特長である。また、段丘のなかで最も高位のものである。

砂れき台地 (Gt II) はかなり分布面積が広い。郡家町、八頭高校の面や野坂川中流の上原と企原の間の高位段丘面が代表的のもので、地形はやや開析されて波浪状を呈し、

大山中部ローム・バミスによって被覆されている。また、やや風化した砂れきや粘土層が堆積物の主要構成物である。

砂れき台地 (GtⅢ) はGtⅡと形成時代がほとんど同時期のもので、地形がやや低位にあるものである。これは、気高町の逢坂谷に広く分布しているほか気高町上光付近や野坂川・宍富川の流域にもみられ、砂丘地帯でもいわゆる「古砂丘」面を形成している。

中位段丘は、砂れき台地 (GtⅣ) として表現した。これは、野坂川中流の上原・上段・下段などの集落が立地する河岸段丘で、大山上部ロームが被覆している。段丘れきは新鮮である。

低位段丘は砂れき台地 (GtⅤ) に相当し、各河川の中流や上流に分布し、大山ロームはみられないが、クロボクが被覆していることがある。構成物質は現河床と同様の新鮮な堆積物である。

以上の段丘地形のほか台地地形類似のものに古崖錐地形がある。本地域では鷲峰山西ろくに広大な地形面の分布がみられる。この面は鷲峰山を構成する安山岩の巨れきや風化物質で被覆されている。佐治谷の津無や梨原付近にも同様の性質をもった地形面がみられる。ここでも安山岩の角れき層が地形を作り、大山中部ロームやクロボクに被覆されている。

2-3 低地

鳥取平野はデルタと谷底平野に区分される。谷底平野は千代川主流に沿っては円通寺以南にみられ、砂れき質堆積物からなる。デルタ地形は円通寺以北にみられ、泥質堆積物からなり、ほぼ縄文海進の範囲に分布している。デルタ面のうち低位の地形は泥炭質の泥の堆積物が卓越し、大水時に侵水を受けやすい場所に相当する。千代川下流部のデルタ上には自然堤防の発達がみられる。安長・秋里・晩稲付近は比高1mから3mに達する微高地を作り、砂質堆積物からなる。また、デルタ上には、千代川の旧流路の跡が多数残存している。

砂丘地は鳥取平野北方に広く分布し、その最高点は浜坂砂丘では92mに達している。しかし、これは飛砂が丘陵地帯にはい上った結果であり、大部分の砂丘は比高が30m程度である。この砂丘の形成は成長と停滞を繰り返しながら5回以上にわたって形成されたものである。その証拠は白兔身干山砂丘・宝木高浜砂丘・鳥取市新田付近の砂丘内に

あるクロスナや古土じょうによって論証し得る。砂州状地形は湖山砂丘の海拔8 m以下の平坦な砂地帯にみられる。これは、北条砂丘の海拔6 mほどの砂州と対比されるものである。

3 地形災害

本地域は、山地が比較的安定していて崩壊地形は少ない。図葉北部には吉岡・鹿野の2本の活断層線があり1943年の鳥取地震の際に活動して被害を与えた。現在でも野坂西方のケルンコル状鞍部に断層の割れ目が残っている。両活断層線は、再活動の可能性があるから注意を要する。千代川は延長 56.8 km流域面積1190km²に及ぶ大河川であるため、古来大規模な洪水が知られている。洪水の回数も極めて多く藩政時代 270年間に66件の洪水が記録されており、4年に1回の洪水ひん度である。明治以後においても鳥取市周辺部は大洪水の被害を度々受けた。

砂丘地帯においては飛砂による田畑・家屋の埋没などの地形災害があったが、現在は無視できる程度に制御されている。海岸侵食は冬季の高浪により砂浜海岸にひん発し、賀露西海岸、伏野・白兔の海岸で対策がすすめられている。また、河口が漂砂によって閉そくしたり、浅くなるため、切り開く工事やしゅんせつ工事が必要である。

(鳥取大学 文部教官 豊島 吉則)

Ⅱ 表層地質図

本図葉に分布する岩石及び堆積物は、未固結堆積物、半固結堆積物、半固結～固結火山性岩、固結火山性岩石、深成岩、變成岩に大別される。本図葉地域内には、次のような断層や地質構造が認められる。1943年の鳥取大地震によって、鹿野及び吉岡と名付けられた2条の地震断層が形成されている。吉岡断層は、鳥取市長柄部落南端から鳥取市野坂部落南端付近に至る、東西4.5 kmの間である、走向はほぼ $N80^{\circ}\sim 85^{\circ}E$ で、逆断層を表わす。しかし、現在では、これらの断層の位置を野外で確認することは困難である。

鹿野断層は、鹿野町鷲峰山北側の山ろくから口細見に至る東西約8 kmの間である。走向はほぼ $N75^{\circ}\sim 80^{\circ}E$ を示し、ところによって正断層と逆断層を表わす。

このほかの主な断層は、船岡町、用瀬町に分布する變成岩中に3条。鳥取市久松山北付近に分布する花崗岩と荒金火砕岩中に1条確認できる。佐治村津無から河原町高福をへて靈石山を結ぶ方向が向斜軸と考えられる。

1 表層地質細説

(1) 未固結堆積物

れき (g)

千代川流域の中流、上流の谷底平野特に円通寺以南の部分に分布している。れき質は、上流部の花崗岩・火山岩や古生層の千枚岩などを主体とするものである。堆積物の厚さは、用瀬付近では、千代川の河床に基盤岩が露出していることから、推定されるように比較的薄いが円通寺付近では、10m以上に達する。

千代川の支流の八東川、佐治川、曳田川、砂見川、有富川、野坂川流域にも同様の地層が分布する。気高町の河内川、青谷町の日置川流域においても、かなり下流域にまでれきが分布する。これらの地域では、れき質のため透水性が高く、地下水が顕著に流動している。

砂 (s)

本図葉の海岸部にみられる砂浜と低平な砂州状の地形を作る堆積物及び鳥取平野のデルタ上にみられる自然堤防堆積物を、一括したものである。砂州状地形の堆積物としては、湖山池北方堀越付近の海拔8 m以下の平坦な砂地帯や浜村砂丘西部の砂地帯のものが分布面積が広い。自然堤防堆積物は千代川下流の蔵田付近や秋里、晩稻付

近にみられ、シルト混りの砂層が卓越する。

砂丘砂（新砂丘）（Sn）

沖積世に形成した新砂丘で、鳥取砂丘、湖山砂丘、白兔砂丘、浜村砂丘の主要部をなすものである。砂丘中に暗黒色のバンドをはさむことがあり、これをクロズナと呼ぶが、大部分の砂丘砂はクロズナより新しいものである。しかし、鳥取砂丘や白兔砂丘の一部にはクロズナより古い黄色風化を受けた、化石砂丘砂が点在している。砂丘砂は、一般に淡黄色ないし黄灰色をしているし、その9割は石英であり、中位粒径は0.35mm程度である。砂丘砂層の厚さは場所により一様ではないが、白兔砂丘や浜村砂丘で30m、湖山砂丘や鳥取砂丘で40m内外と推定される。砂丘砂層の下には、海成粘土層がみられる場合と、より古期の砂や岩盤の場合とがある。

泥（m）

海岸砂丘の内陸側の低地に泥層がよく発達する。地形的には三角洲の分布範囲とはほぼ一致している。層厚は、10～20mで、軟らかいシルトや細砂混じりの泥が卓越し、黒色の泥炭層や埋れ木、海成貝化石を包含していることが多い。N値は、著しく小さく含水比大な地層である。したがって、地耐力が小さいから基礎地盤としては不適で、介在する砂層が下部の砂れき層を支持地盤とするが、十分な工法土の配慮をする必要がある。この地層は、細文海進による海成層と陸地の後背湿地堆積層からなり、内湾、河口型の堆積物である。山間地では、岩坪北方の高原上に細長く泥質帯が分布し、深田として利用されている。

碎屑物+火山灰土

図葉西部の鷲峰山西ろく部と図葉南部の佐治谷の梨原には、相当広い範囲に崖錐堆積物や火山灰からなる地形が分布している。また、河谷上流部の谷頭部にも同様の堆積物が分布している。これらは、洪積世末期の現在とは異なる気候環境下に形成された押し出しによる堆積物で、土石流堆積物であろうと考えられるものと、もっと徐々に移動した岩塊流的なものがある。岩質はすぐ背後の地質に支配されている。

(2) 半固結堆積物

砂れき3（Sg₃）

本図葉内に発達する段丘のうち、低位のもの構成物質を主体とするもので、気高町の勝見神社の乗る段丘堆積層を模式的なものとするものである。一般に新鮮な円れ

き層からなり、表層にはクロボク及び大山上部ロームがみられる。

砂れき 2 (Sg2)

段丘のうち中位のもの構成物質を主体とするもので、野坂川中流の上原と金原の中間に分布する牧場地帯の付近を標式とする。堆積物は、若干風化した砂れき層及び粘土層の互層からなり、大山中部ロームによって被覆されている。

砂れき 1 (Sg1)

高位段丘相当層をつくる砂れきで、本図葉では、分布範囲は狭いが、河原町渡一ツ木や佐貫付近にみられる。地形面は、開析されており、砂れき層は赤かっ色をていしくサリれき化している。

砂 (古砂丘砂) (So)

洪積世に形成され、大山中部火山灰層に被覆される砂丘層や古い砂州堆積物を一括した。湖山砂丘や浜坂砂丘に広く露出しているほか、海岸砂丘地帯よりはるか内陸の布施、天神山付近にも分布している。風化した黄かっ色ないし黄灰色の細粒砂からなり、淘汰良好で、やや固結している。厚さは、30m以上と推定され、津ノ井粘土層と同時期に堆積したものと考えられる。

(3) 半固結～固結火山性岩石

ローム 3 (火山上部火山灰) (L3)

大山上部火山灰は、本図葉内では層厚が0.5 m内外と薄くなっている。現地形に調和的に発達しており、最上部にクロボクがおおっている。

ローム 2 (大山中部火山灰) (L2)

本図葉内の平坦地を被覆して良好に発達する火山灰層で、主として「ミソツチ」と称される軽石層とかっ色火山灰からなり層厚は1～2 mである。

ローム 1 (火山下部火山灰) (L1)

本図葉内では、青谷、倉吉図幅に発達する典型的な下部火山灰は、知られていないが、中部火山灰下に厚い粘土を有するものや、粘土化の著しいロームがみられるところがある。鳥取市南方の津ノ井粘土堆積地域を代表としてL1の地域を図示してある。

れき岩 砂岩 (円通寺れき岩砂岩層) (Cg2)

円通寺れき岩砂岩層は、図葉東端の円通寺、国英及び霊石山山ろくに厚く発達する。

岩相は、下半部では河原火砕岩層から由来した玄武岩、安山岩およびチャート、花崗岩などの径5～10cm大の亜円れきを主材としたれき岩と黄かっ色ないし暗かっ色を呈する細粒～粗粒の塊状砂岩との不規則な互層からなっている。上半部では砂岩と泥岩が1m内外の層厚で不規則に繰り返す互層を主としている。互層の砂岩は、ときに全体として細れき質になったり、あるいは基底部に細れきをもったりする。層厚は約300mに達する。

れき岩 砂岩（郡家れき岩層）（Cg₁）

郡家れき岩層は、鳥取層群の南縁の古市、神馬、津無、小倉、船岡付近に断続的に分布し、鳥取層群の基底れき岩でもある。岩相は、下半部では花崗岩れきをはじめとする先第三系のれきを主としている。そのれきは径10～30cm大の亜角れき～亜円れきが密集している。層厚は約70mに達する。上半部では安山岩れきを主として、花崗岩やチャートのれきを少量混じっている。そのれきは径5～10cm大の亜円れき～亜角れきを主としてあまり密集していない、れきの配列に規則性を示さないことが多い。層厚は約80mに達する、一般に風化をうけると特有の赤紫色の色調を呈する。

泥岩 砂岩（普含寺泥岩層）（Tf）

普含寺泥岩層は、鳥取市街南の雲山付近に小さく分布している。岩相は、砂岩と泥岩とが1m内外の厚さで不規則に繰り返す互層を主としている。

砂岩は、主に中粒均質塊状である。泥岩は、暗灰色を呈する砂質シルト～シルトからなり、しばしば植物破片の多い部分も含んでいる。本層は、中新世に生じた沈降盆地内に形成された、一連の堆積物である鳥取層群の最上部を占めるものであり、隣国葉の国府町普含寺付近を模式的に分布するので「普含寺泥岩層」と呼ばれる。層厚は、約100m内外である。

泥岩 砂岩（碎屑岩）（Mc）

碎屑岩は、国葉南東部の高山山ろくに火山岩類に伴って局地的に泥岩及び砂岩が小規模に発達するにすぎない。河原間落河内付近の本層はNE～SWの一般走行を示し、南東方向に約600m連続して分布する。後期中生代の堆積岩類は、極めて分布が狭少であり堆積時期は不明であるが、火山活動に相前後して生じた湖沼堆積物と考えられている。

流紋岩質岩石2（大路流紋岩）（Tr）

大路流紋岩は、図葉東端の鳥取市大路に狭少な地域に孤立して分布している。本岩は白色～灰色の流紋岩だが全体的にかっ色に風化されている。ある部分には、板状節理や柱状節理が発達している。本岩分布地は、沖積層にとり囲まれて孤立丘となっている。

(4) 固結性火山性岩石

安山岩質岩石（鮮新世火山岩類）（Pv₃）

鮮新世火山岩類は、本図葉内の南東方向一帯の山頂部や、台地上に広く発達する。また、隣図葉「倉吉、青谷」内の三朝町一帯に広く発達するので三朝層群と命名されている。本岩は、この鮮新世の火山岩類のうち、上部に発達する安山岩質岩石を一括したものである。岩質は、角閃石安山岩、無斑晶安山岩、普通輝石紫蘇輝石安山岩、石英安山岩、角閃石紫蘇石安山岩などからなる。緩く北方へ傾斜し、長尾の鼻のように日本海海岸にまで達している。また、高鉢山の東方岩坪付近のように溶岩台地をつくって広範囲に分布している。厚さは200m以上に達する。

玄武岩質岩石（鮮新世火山岩類）（Pv₂）

玄武岩質岩石は、三朝層群の火山岩類のなかで中位に卓越して発達する玄武岩質の岩石を一括したものである。岩相は、灰～暗灰色、斜長石斑晶を含まない橄欖石玄武岩、斜長石斑晶を有する普通輝石橄欖石玄武岩、粗粒玄武岩溶岩流などからなる。緩傾斜の溶岩台地地形を残して分布している亀尻玄武岩類、霊石山山頂付近に分布する塩基性安山岩類、図葉北端の鳥取市覚寺の北及び南の丘陵上に散在的に分布する橄欖石普通輝石玄武岩もこれに含めた。層厚は約70m内外である。

火山碎屑岩（鮮新世火山岩類—白兔層）（Pv₁）

白兔層は、三朝層群の基底部に発達する火山碎屑岩類で、安山岩、石英安山岩質の凝灰角れき岩、火山れき凝灰岩からなり、砂岩、泥岩を伴っている。本層の下部は、安山岩質凝灰角れき岩を主として火山れき凝灰岩、凝灰岩及び砂岩をはさんでいる。上部は、安山岩質火山れき凝灰岩を主として凝灰角れき岩、凝灰岩をはさんでいる。層厚約200mに達する。

荒金火砕岩（Tu）

荒金火砕岩は、鳥取市街の北方、久松山の山ろくや鳥取市街の沖積層下にも分布する。岩層は、流紋岩ないし石英安山岩質の凝灰岩、凝灰角れき岩を主とし、これに同質の熔岩をはさんでいる。

河原火砕岩 (T1)

河原火砕岩は、河原町河原を中心とした地域、及び、湖山池西岸地域などに広く分布している。河原町付近に模式的に発達するので「河原火砕岩」とよばれている。岩相は、主として安山岩、玄武岩、及び粗面安山岩質の凝灰角れき岩ないし凝灰岩からなり、部分的に安山岩、玄武岩の熔岩をはさんでいる。一般に変質作用を受けているが、特に湖山池地域の火山砕屑岩では著しい。鳥取市上砂見大湯棚のベントナイト鉱床の母岩は、本層の火山れき凝灰岩である。

流紋岩質岩石 1 (中生代火山岩類) (Mr)

流紋岩質岩石は、図葉のほぼ中央部を中心に広い地域に分布している。本岩は、凝灰岩～凝灰角れき岩からなり、鳥取市卯垣、河原町中井、神馬には熔結構造の明瞭な凝灰岩、鳥取市賀露、大島、上砂見、河原町北村などには、明瞭な縞状構造を呈する流紋岩熔岩が発達している。

(5) 深成岩

淵見閃緑岩 (Df)

淵見閃緑岩は、図葉東端の鳥取市街北東の摩尼山～淵見付近を連ねる線上に分布し、淵見閃緑岩と呼ぶ比較的大きな侵入岩体をなしている。本岩は、主として黒雲母角閃石石英閃緑岩であるが、場所により異なった外観を呈し、閃緑玢岩質の部分や石英斑岩状の部分もある。本図葉内の岩体は安山岩質となっている。また、摩尼山などの岩体は安山岩質の岩脈岩類などの複合岩体であって、侵入の方向にも規則性はない。本岩類は、鳥取層群を貫き、著しい変質作用を受けている。

花崗岩質岩石 3 (鳥取花崗岩—中生代第三期侵入岩類) (Gr₃)

鳥取花崗岩は、鳥取市南西部から鹿野町、気高町、青谷町にまたがって広く分布する。しかし、中新世及びそれ以後の岩層によって被覆されるために現在の分布地域は幾つかに分離されているが、侵入岩類では最も広い面積を占めている。鳥取市を中心に模式的に分布するので「鳥取花崗岩」と呼ばれている。岩相は、粗粒黒雲母花崗岩を主として細粒黒雲母花崗岩、アプライト質花崗岩及び少量の花崗斑岩などをまじえている。本岩中にはモリブデン、タングステン、ウラン、鉄、砒素、絹雲母などの鉱床を胚胎し、従来は県下の重要な鉱物資源となっていたが、現在は、休眠中である。本岩は、深層風化が著しく、まさ状になる。

花崗岩質岩石 2 (用瀬花崗岩—中生代第二期進入岩類) (Gr₂)

用瀬花崗岩は、本図葉の南部を占める用瀬町用瀬、屋住付近に模式的に分布するので「用瀬花崗岩」とよばれている。また、佐治村南部、三朝町東部(人形峠・鉛山)、岡山県苫田郡付近に連続して分布している。岩相は、優白色、中粒～細粒の黒雲母花崗岩である。本地域に分布する花崗岩の中では比較的風化に強く、石材として利用されている。

花崗岩質岩石 1 (鉛山型花崗岩—中性代第一期貫入岩類) (Gr₁)

鉛山花崗岩は、鳥取市街北東の久松山から北西の新田、賀露にかけて、図葉南東の安蔵付近に、小規模な台体をなして分布している。岩相は、細粒～中粒で、しばしば斑状組織を示し、また、石基部が微文象組織を呈することが少なくない。本岩は、微文象花崗岩、細粒花崗岩、花崗班岩、石英班岩、石英閃緑玢岩などの酸性半深成岩類の総称である。

斑柎岩質岩石 (若杉山斑柎岩) (Gg)

斑柎岩質岩石は、図葉南西部の鳥取市高山など、限られたところにかかなり大きな岩体として分布する。岩相は、優黒質、塊状、粗粒～細粒で斑柎岩、閃緑岩、石英閃緑岩、閃緑玢岩など各種の岩相からなり、相互に移化しあうことが多い。

(6) 変成岩

三郡変成岩 (Pm)

三郡変成岩は、千代川西岸の和奈見対岸や川床付近には玄武岩溶岩、佐治川北谷の支谷には黒色千枚岩、用瀬町大安興寺には珪質千枚岩、用瀬町下平ではチャート及び砂岩、用瀬花崗岩と接触する付近ではホルンフェルスが分布している。これらの変成岩は「三郡変成岩」と呼ばれている。全層厚は約 3,000m を超えるものと思われる。変成岩類の片理は、明瞭であり原岩の層理面に平行なものとこれに斜交するものがある。また、岩片岩体ともに比較的硬いがはく離性に富んでいる。

2 応用地質

(1) 災害

地すべり、山崩れ

図葉内で災害上留意すべき箇所は、次の三か所である。佐治村津無(郡家礫岩層)鳥取市御熊(河原火砕岩)、河原町中湯棚(流紋岩質岩石)、いずれも山ろくの谷あ

いで、前者二か所は、やや急傾斜地に民家が密集しており、出水時には大規模な山崩れを起す危険性がある、後者は風化した流紋岩岩石、安山岩質凝灰角れき岩、安山岩凝灰岩と崖錐でその割れ目に表流水が入ることにより少しずつ滑動すると考えられる。そのほかにも崖錐分布地域や河内川上流の急崖も崩壊をおこす可能性を含んでいる。

平野の地盤

図葉北端の海岸部には、鳥取平野、宝木、浜村、青谷などの沖積平野が発達している。鳥取平野の地下は、千代川河口付近で沖積層（45m）と洪積層（55m）に区別される。鳥取平野の洪積層は、第三系の基盤岩の上に、下位から最下部砂れき層（30±m）、下部粘土層（1～20m）、下部砂れき層（3～20m）、沖積層は、下位から中部砂・粘土互相（20±m）、中部粘土層（20～40m）、上部砂層2～6m）、上部粘土層（5±m）、最上部砂れき層からなっている。地下30mより上側に堆積する中部粘土層、上部砂層、上部粘土層、最上部砂れき層の沖積層は、N値が10あるいはそれ以下を示す、なかでも中部粘土層は海成粘土の軟弱地盤である。これらの地層が分布する海岸平野は、未固結の砂丘砂を含めて土地利用については注意が必要である。

海岸侵食

鳥取砂丘の西方の伏野白兔海岸では、海岸侵食に対する防止工事が施工されている。各河川上流で砂防工事が進んで河川による砂の供給がほとんどなくなった現在では、海岸で漂砂が集積する場所があれば侵食が並行して起こっていると考えられる。

(2) 鉱床

本図葉内には、多くの鉱山が開発されたが、しかし、現在稼働されているところはない。弱変成古生層中に伴う鉱床として、佐治村尾際の北山ろくで、黒色千枚岩、千枚岩質珪岩中に胚胎するマンガン鉱石には、一酸化マンガン鉱、菱マンガン鉱、テフロ石、バラ輝石などがある。

上砂見ベントナイト鉱床は、安山岩質凝灰岩が熱水作用により交代生成されたものである。花崗岩質岩石3に伴う鹿野鉱床は、浅熱水性の脈状の形態を示す、絹雲母～黄鉄鉱脈がある。宝木、浜村の海岸では、海浜砂鉄を採集していた。

(3) 石材

円護寺付近に分布する荒金火砕岩中の緑色凝灰岩を円護寺石と呼ばれ、土合石、石垣用の石材として出していたが現在は休鉱中である。白兔付近の砂丘砂は、細骨材と

して採取されている。

(4) 地下水

本図葉内の、千代川を中心とした鳥取地区及び河川内を中心とした気高地区には、水質及び水量共に優れた地下水が賦存されている。取水の対象となる帯水層は、沖積層の砂れき層が自由地下水を賦存し、洪積層の砂れき層が被圧地下水を賦存する。

千代川が鳥取平野に臨む河原町河原から鳥取市叶茶屋地区では、 $50,000\text{m}^3/\text{bay}$ に達する地下水があるものと推定されているが、この地下水は千代川東岸の鳥取市円通寺から吉成を経て行徳に向う透水帯を流れていると推定されている。自由面地下水は、更に北流して被圧地下水となっている。気高地区では、鷲峰山の南ろくに発源する河内川で約 $10,000\text{m}^3/\text{bay}$ の自由面地下水が流動しており、 $4,000\text{m}^3/\text{bay}$ 内外が取水可能と考えられる。また、浜村川以西の地域には鮮新世火山岩類が広く分布しており、気高町殿村では、その裂罅や不整合面から $1,000\text{m}^3/\text{bay}$ 湧泉を生じている。被圧地下水の流動は河内川の下流を除いてはあまり認められない。最近鳥取市街地（県庁、智頭橋付近）では、地盤沈下が起っており、地下水、温泉水の利用と含め原因追求が急がれる。

(5) 温泉

浜村、鹿野及び吉岡、鳥取は、温泉地として利用されているが、湯谷地区は、温度が低いので、民衆等の雑用水に利用されているにすぎない。温泉分布地のほとんど全部が中生代後期花崗岩の分布と一致している。これらの温泉は直接花崗岩の割れ目から湧出しているものはないが、花崗岩中からの温泉水が沖積層中に流出したものを泉源として得ていると考えられる。それらの泉質、温度は第4表のとおりである。

第 4 表

温泉地名	平均温度	湧出量ℓ/分	主な泉質	備考
鳥取	48.2 °C	655.0	含芒硝食塩泉	
吉岡	49.3 °C	726.5	単純泉	
浜村	52.7 °C	990.6	含石膏食塩泉	
鹿野	60.7 °C	571.4	単純泉	
湯谷地区	(34.2 °C)	(136.4)	含重曹食塩泉	

(鳥取大学 文部教官 赤木 三郎)

(鳥取大学 文部教官 豊島 吉則)

(倉吉市社小学校教諭 佐治 孝之)

参考文献

地質調査所(1963) 5万分の1「鳥取北部・鳥取南部」地質図及び同説明書
鳥取県(1967) 鳥取県地質図及び同説明書。

Ⅲ 土 じ ょ う 図

1 山地及び丘陵地域の土じょう

1-1 土じょうの概要

本図葉地域は、鳥取県の東部、鳥取市街を含む千代川の西部より、中国脊梁山地から日本海にいたる北側斜面である。

この地域には、開析のよく進んだ海拔 1,000m未滿の山地が広く連なり、海拔 1,000m以上の山地は図葉南西部の三国山—高鉢山—高山を中心とした狭い範囲にすぎない。図葉内に出現する土じょうはかっ色森林土じょうが、その大部分を占め、黒ボク土じょうポドゾル化土じょうなどが一部にみられ、これらは、地形、地質などにより各々特徴をもった土じょうを形成し分布している。

日置川、河内川、千代川及びその支流河川を中心として開析の進んだ山地、丘陵地にはかっ色森林土じょうが広範に分布している。一般に、その尾根筋には乾性かっ色森林土じょうが、沖積平野や海岸部に接した低山丘陵地には黄かっ系ないし赤かっ系のかっ色森林土じょうが出現する。また、三朝町、鹿野町、鳥取市、佐治村などには黒ボク土じょうが点在し、岡山県境三国山を中心とした海拔 1,000m以上の一部には、ポドゾル化土じょうが分布している。

1-2 土じょう細説

厚層黒ボク土じょう

火山灰を母材としたもので、表層土が50cm以上の黒～黒かっ色を呈し、佐治村河原町（西郷地区）、鳥取市（明治、神戸地区）、鹿野町（小鷲河地区）、三朝町（小鹿地区）などの緩斜面や谷筋を中心に分布する。

全般にスギ、ヒノキの造林地が多くその生育も良好である。

黒ボク土じょう

厚層黒ボク土じょう同様、火山灰を母材とし、黒～黒かっ色を呈する表層土が50cm以下で、厚層黒ボク土じょうより中位の傾斜地や、単調な台地形の尾根筋に分布している。

スギ、ヒノキの造林地が多く、その生育は厚層黒ボク土じょうよりやや劣り、佐治村の一部ではなしの栽培がなされている。

乾性かっ色森林土じょう

岡山県境中国背梁山地より連なる山腹上部や、谷密度の高い丘陵地の尾根筋に幅狭く分布する。A層がよく発達し、B層は薄く堅密で腐植に乏しく一部に不透水層のM層がみられることもあり、その理化学性も劣り、低質広葉樹や天然アカマツ林が多くその生育は劣る（林野土じょうのBA、BB、BC型に相当する。）

乾性かっ色森林土じょう（黄かっ系）

中間～低山丘陵地の安山岩、玄武岩、花崗岩などを基岩とする地域の鹿野町、気高町、鳥取市（末恒、東郷、大和地区）、河原町（西郷、国英地区）などの山腹上部より尾根筋にかけて比較的幅広く分布する。A層は乾性かっ色森林土じょう同様浅く堅密で腐植に乏しく、またB、C層は黄味を帯びた酸性の土じょうでアカマツ天然林や人工造林地が多いが、その生育は劣る。

乾性かっ色森林土じょう（赤かっ系）

青谷町、鳥取市（大郷、松保、吉岡、米里地区）、那家町（国中地区）などの安山岩花崗岩を基岩の中心とした低山丘陵地域の尾根筋に分布し、その面積は狭少である。

A層は前記土じょう同様浅く、堅密で腐植に乏しく、B、C層は乾性かっ色森林土じょうに比べ赤味が強く、酸性の土じょうで、その理化学性も悪く、アカマツ天然林や人工林がみられるが、その生育は劣る。

かっ色森林土じょう

岡山県境三国山、高鉢山、高山などより連なる山岳地の山腹斜面から谷筋にかけて広

籠に分布しており、その面積は、本図葉の約60%を占めている。

一般にA層は厚く、腐植に富みB層はかっ色を呈し、その層位は漸変し膨軟で弱粒状～団粒状構造が発達した匍行土～崩積土である。地形、気象などの条件によりスギ、ヒノキの造林適地とアカマツ造林適地に大別され、その生育は全般に良好である。また、一部には果樹（なし、かき）の栽培がなされているところもみられる（林野上じょうの円D（d）、BD型に相当する。）

かっ色森林土じょう（黄かっ系）

この土じょうは、乾性かっ色森林土じょう（黄かっ系）の地域の山腹斜面から谷筋にかけて分布している。A層は比較的厚く腐植に富み、B、C層の色調はかっ色森林土じょうに比べ黄色味が強く、山腹斜面ではやや乾燥気味でアカマツ造林地が多く、一方谷筋では団粒状構造が発達し、スギの生育は良好である。また、一部なしの栽培もなされている。

かっ色森林土じょう（赤かっ系）

乾性かっ色森林土じょう（赤かっ系）の地域の低山丘陵地に分布し、一般に全層土は深い割合堅密で構造の発達もやや不良で、その理化学性も悪く、アカマツの人工造林がすすんでいるが、生育はやや劣り、一部なしの栽培がなされているところもある。

湿性かっ色森林土じょう

かっ色森林土じょう地域のうち、かなり起伏の大きい山腹斜面下部や谷筋に点在して出現する。A層は、非常に厚く腐植に富み、膨軟な団粒状構造が深くまで発達した崩積土である。林野土じょうの1等地で、その生産力は高くスギの優良林分がみられる。（林野土じょうのBE、BF型に相当する。）

乾性ボドゾル化土じょう

岡山県境中国脊梁山地を中心として、海拔1,000m以上の高地で乾きやすい斜面上部や尾根に出現し、天然スギ林やブナ林がみられる。地理的、気象的条件により落葉の分解が悪く、粗腐植のAo層（F、H層）が厚く堆積し、灰白色の溶脱層（A2層）が斑点状に現れたり、チョコレート色の集積層（B層）がみられることが多く、酸性の土じょうである。

湿性ボドゾル化土じょう

乾性ボドゾル化土じょうの分布に接し、海拔1,000m以上のブナ林を中心にしたやや

湿潤になりやすい平らな尾根や鞍部に点在している。この土じょうもA0層（特にH層）が厚く堆積し、A層も厚くかつ灰色の溶脱層（A2層）やオレンジ色の集積層（B層）が多くみられ、酸性の強い土じょうで、更新に当たっては特に注意を要する。

（鳥取県林業試験場 平尾 勝男）

参 考 資 料

- | | |
|-------------------------|-----------------------------|
| 1, 鳥取県林業試験場 (1956~1969) | 民有林適地適木調査報告書 |
| 2, 鳥 取 県 (1966) | 鳥取県地質図 |
| 3, 林野庁大阪営林局 (1968) | 大阪営林局土壤調査報告書第13報
鳥取事業区 |
| 4, // (1970) | // // 第18報
倉吉事業区 |
| 5, 岡山県林業試験場 (1969) | 民有林適地適木調査報告書
第15号 苫田北部地区 |
| 6, 経 済 企 画 庁 (1974) | 土地分類図1/20万「鳥取県」 |
| 7, 鳥 取 県 (1974) | 土地分類基本調査1/5万
「青谷, 倉吉」 |

2 台地, 低地地域の土じょう

2-1 土じょうの概要

本図葉は鳥取市周辺の地域で、比較的に急しゅんな山地が日本海に突出し、耕地は県三大大河川の一つである千代川流域と一部河内川流域にひらけ固結火成岩に由来する沖積土じょうである。

図葉内の土じょう分布は、千代川河口付近に細粒灰色低地土じょう、灰色低地土じょう、河川に沿った旧河床地には粗粒灰色低地土じょう（れき層、れき質、砂質）、湖沼退化地、谷間の水田は一般に排水が不良で、粘性が強く、グライの発達した土じょうである。

黒ボク土じょうは、図葉西部気高町陸逢、同北部八頭郡佐治村の台地に局部的に分布し下層に黄色の厚い軽石風化層をもち、大山火山灰土じょうの堆積様式と類似する。

多湿黒ボク土じょうは台地、山間部水田に局部的に分布し、黒土層の厚いものと、河

川の影響を受け黒土層の埋没したもの、下層にれき層を有するものに分類した。砂丘未熟土じょうは、日本海に沿って東西に細長く分布し、千代川以東は国立公園、千代川以西は約半分が畑として利用されている。

2-2 土じょう細説

砂丘未熟土じょう (RS)

海岸地方にあって風積により堆積したA層の発達弱い全層砂からなる土じょうである。千代川以東は起伏が大きく砂丘となり国立公園内に入り、千代川以西はやや平坦で砂地となっている。

柱状断面1型

一般に砂丘未熟土じょうは腐植含量、粘土含量が少なく、保肥力、保水力が弱く干ばつのおそれがある。本土じょうの大部分は千代川河口に分布し、砂地は畑として利用され、畑地かんがい施設が完備し生産力も高い。

砂丘地の土じょうはA層の発達が全くないか極めて弱く、畑地においても図葉西部のものは腐植含量が少なく、東部のものは腐植含量が多く土色が濃く、熟畑化が進んでいる。

黒ボク土じょう (A)

本図葉北西部気高町陸途、南部八頭郡佐治村の台地に分布し、腐植層50cm以内、次層に黄色(10YR 6/6)の軽石風化物の水土をともない最下層に黄色(10YR 5/8)の粘土質の土層となっている。

柱状断面4型

本土じょうは大山原野一帯に分布する土じょうと類似し、一般にりん酸吸収係数が高く、強酸性で保水力が強くと、降水時は粘着性が増加し、乾燥すると飛散し、物埋、化学性は不良土じょうといわれている前者は普通畑、後者は樹園地として利用されている。

多湿黒ボク土じょう (A-W)

図葉内に局部的に分散して分布する、いずれも腐植に富む火山灰土じょうである。堆積状況により次のごとく区分した。

(1)層序が黒ボク土じょうと類似し、下層に軽石風化土を伴うもの

(2)河川の影響を受け黒色層が埋没したもの、下層にれき層をとまなうもの沖積土と混合し黒色土層の退化したもの等である。

柱状断面7型 (A-W-1)

鹿野町, 気高町, 佐治村, 郡家町に局部的に分布しやや台地に位置している。表層は黒色～黒かっ色で, 漸移層をはさんで黄かっ色 (10 Y R 5/6) の水土を伴う, 一般に置換容量が大きく, りん酸吸収係数, 窒素含量が高いが, 遊り鉄含量は少ない。

柱状断面6型 (A-W-1)

河川の影響を受けたもので黒色土層の埋没したものが気高町上原に, 下層にれき層を伴うものが八頭郡河原町 (旧西郷村) 佐治村に, 沖積土と混合したものが八頭郡用瀬町鷹狩に分布しているのが主なものである。

前2者の黒色土層の化学性は柱状図⑦型に類似するが後者は火山灰土じょうと沖積土じょうの化学性の中間である。

細粒灰色低地土じょう (GL-f-1)

灰色土じょう粘土構造型と灰かっ色土じょう強粘土構造型及び粘土マンガン型のもので, 図葉内東部の千代川と新袋川の合流点以南の平たん地水田に主として分布し, 粘質で透水性は不良であるが生産力は高く, 東部の穀倉地帯である。

柱状断面25型 (GL-f-1)

灰色, 灰かっ色土じょう粘土構造型のもので, 全層灰かっ色の粘質土で, 極めてち密で透水性が不良である。鳥取市本高, 河原町佐貫, 畠田一帯に集団して分布し, その他各地に分散する。

柱状断面26型 (GL-f-1)

灰色土じょう粘土マンガン型, 灰かっ色土じょう粘土質構造マンガン型の土じょうで, 全層灰かっ色の粘質土で, 鉄の班紋は40cmまでに発達し, 作土層以下はマンガンの班紋結核が顕著に発達し, 他のものと異った特徴をもっている。土じょうは, ち密で粘着性強く, 透水性不良のため作業能率が悪い。鳥取市的場一馬場一帯に広く分布し, 地方は中庸であるが鳥取平野の穀倉地帯である。

灰色低地土じょう (GL)

本土じょうは図葉内の各河川沿いの平たん地に主として分布し, 粗粒灰色低地土じょうに伴って分布する。排水は良好のため耕作は容易であり, 生産力は高い。

柱状断面27型 (GL-1)

灰色, 灰かっ色土じょうのじょう土型で, 表土は灰かっ色のじょう土で班鉄を含み,

下層土は砂質である。表土の化学性は、置換容量 10m ℓ 、乾土効果 5 mg。遊り鉄は 0.5 %以下で下層土に多い。

柱状断面28型 (GL-II)

灰色及び灰かつ土じょうじょう土マンガン型のもので柱状断面27型の土じょうに接して分布するが、河川からの距離がやや遠い位置にある。

各層ともにじょう土質で、最下層は粘質土である。表土の鉄の班紋の発達が著しく遊り鉄含量は多い。また、表土より下層土の化学性が良好で、透水性はやや不良であるが主要な穀倉地帯である。

粗粒灰色低地土じょう (GL-C)

本土じょうは鳥取県三大河川の一つである千代川流域に広く分布し、そのほかに小河川に沿って分布する。表土は砂じょう土、下層は砂～砂れき質である。排水は良好で裏作適地であるが、遊り酸化鉄含量、置換容量が小さく、水稻秋落現象の甚だしい地帯である。分布面積は、灰色～灰かつ色低地土じょう砂土型が最も多く、次いでれき層～れき質土じょう、砂土河床型土じょうである。

粗粒灰色低地土じょうに包含した土じょうを土性、班鉄の集積状況等により四区分した。

柱状断面29型 (GL-C-C)

れき質土じょうじょう土マンガン型のもので、表土は灰かつ色のじょう質土で13cm～57cmの間に鉄の班紋がじょう質土の中に沈着し(含～富程度に)次いで砂質層をはきみ粘質層となっている。

化学性は表土、置換容量12m ℓ 全炭素1%乾土効果4mg内外遊り鉄0.4%で、地力的には中庸である。

一帯は排水良好で裏作に適し水稻は秋落を呈する。分布は、函葉西部の鹿野町付近に小面積ながらみられる。

柱状断面30型 (GL-c-d)

灰かつ色土じょう砂土～灰色土じょう砂土型のもので表土は灰色～灰かつ色の砂～じょう質土で下層は灰色の砂質土が堆積し数度にわたる河川の影響を受けた跡がみられる。

表土は置換容量12m ℓ 内外全炭素1%乾土効果7mgと地力は中庸である。排水良好

で裏作に適し、米作地帯である。

主な分布は千代川流域で、河川に沿い細長く分布する。

柱状断面31型 (GK-c-b)

れき層土じょう砂土河床型とれき質土じょう砂土盤層型のもので、表土はじょう質であるが下層は砂～砂れき土で排水は良好である。表土の置換容量10m ℓ 全炭素2%乾土効果8mg遊り鉄0.5%内外である。下層程鉄の集積が多く、溶脱の跡がみられ、かなり水稻の秋落がみられる。

面積的には少なく八東川と千代川の合流点一帯に分布する。

柱状断面32型 (GL-c-a)

れき層土じょう班鉄盤層型一粘土型のもので河川の影響を最も強くうけたものであり、下層は砂～れき層である。

表土は灰かっ色の砂じょう土で置換容量10m ℓ 乾土効果7mg、下層土は30cm以内より砂れき層で排水良好のため裏作可能である。一般に有効土層が浅く秋落地である。

平たん部の分布は少なく、山間部の河川沿いの水田にこの土じょうが多い。

細粒グライ土じょう (Gf)

強グライ土じょう強粘土還元型とグライ土じょう強粘土構造型のもので、湖山池周辺河原町山手一帯の谷間の水田に分布し、全層あるいは作土直下よりグライ層 (α - α' ジビリナル反応が鮮明に表われる土層)があるもので泥炭、黒泥土、火山灰土層を持たないものである。

柱状断面33型

作土直下よりグライ層の発達が顕著なもので低湿地地帯に分布する。全層粘質土で、下層土は周年還元状態で水稻の収量は不安定で常に根腐れを発生する低位生産地である。

また、湖山池周辺のもので内陸部に分布するものはグライ層が50cm以下にさがり、その程度も緩和されるが、全層粘質で透水不良のため水稻生産量は高くない。

グライ土じょう (G)

強グライ土じょうじょう土還元型、じょう土班鉄型、及びグライ土じょうじょう土型のもので全層グライが作土直下よりグライ層の発達したもので下層土に泥炭、黒泥、火山灰土を伴わないもので、図葉西部の気高町浜村、宝木にわずかに分布する。

柱状断面34型

グライ土じょうじょう土型で、表土は灰かっ色の粘質土で鉄の班紋の集積が顕著で、下層土は灰色のじょう土質、グライ層は34cm以下に顕著に発達し、地下水位は60cmにみられる。表土の化学性は中庸であるが下層土は極端に悪い、土じょう生産力は中庸である。

粗粒グライ土じょう (G-O)

強グライ土じょう砂土還元型、グライ土じょう砂土型のもがこれに該当する。鳥取市、小沢見、湖山、鳥附近に極めて小面積に分布する。

柱状断面35型

グライ土じょう砂土型のもが主体で、全層が砂で班紋の集積なく、地下水位50cm内外で下層にグライ層が発達する。環境条件も不良で低位生産地である。

低位泥炭土じょう (LP)

泥炭質土じょうじょう土型が大部分で、下層に泥炭層を有することが特徴である。鳥取市桂見、末恒、気高町姉泊にわずかに分布する。

柱状断面36型

表土は灰かっ色のじょう質土で、28～30cm以下は泥炭層がみられる。一般に低位生産地で、泥炭層が作土直下にある場合は水稻の生育障害が起こる。

また、場所により表土が粘土質の場合もある。

黒泥土じょう (M)

黒泥土じょう粘土型がこれに該当し、鳥取市湖山、賀露、気高町水尻、日光池一帯の湖沼地あるいは湖沼退化地に分布し、広がりには鳥取市湖山一帯が主なものである。

柱状断面37型

全層粘質でち密なうえ低湿地にあるため排水不良である。表土は、灰かっ色で鉄班紋の発達は弱い。泥炭層は表土下22cmでみられ、場所により厚さは異なるが50cm以上の厚さをもち、最下層に泥炭層が層位することもある。地下水位は60cmで湧水する。

気高町水尻、日光池は夏期は水田となり、冬期は湖沼となり稲作単作で収量は不安定である。

これら黒泥土じょう地帯は有効土層が少なく、土木工事等で土層攪乱がある場合は水稻に障害を起こすので注意が必要である。

(鳥取県農業試験場 西尾 一雄)

参 考 資 料

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1, 鳥取県農業試験場 (1963) | 施肥改善事業調査報告書 (千代川沖積地区) |
| 2, " (1970) | " (大山山麓。三朝, 気高地区) |
| 3, 経済企画庁 (1974) | 土地分類図 1/20万 (鳥取県) |
| 4, 鳥取県 (1973) | 土地分類基本調査 1/5万 「赤碕・大山」 |
| 5, " (1974) | " 「青谷・倉吉」 |
| 6, 鳥取県農業試験場 (1975) | 鳥取県土地生産性分級図および地力保全対策図 |
| 7, 鳥取県 (1975) | 鳥取県土地利用現況図 |

IV 水系, 谷密度分布図

水系分布図は2万分の1空中写真に実体視によって認められる谷をデルマトグラフィで記入し, これを5万分の1地形図に転写して作製した。更に現地での地形観察や地形図からの読図によって補正して作図した。水系の分布図をみると, 山地の性質と水系のパターンとがかなり関連していることがわかる。

水系の模様で最も一般的なのは樹枝状水系である。特に樹枝状水系の発達しているのは図葉西南の起伏の大きい山地で, 三国山・高鉢山・高山付近に良好である。その水系を注目するとそれぞれの一次の谷がかなり長大であり, 谷は多少湾曲している。

小起伏山地や山ろく地の水系は短小な谷が松葉状又は扇状に分布する特長をもっている。これは山地が小起伏のため山腹斜面は狭小であり, その結果短小で直線状の水系が平行して発達したりするのである。もう一つの水系パターンは, 著しく細長い平行型ないし格子型の水型である。これは, 主に溶岩台地上に発達する長尾鼻南方の溶岩台地や岩坪北方の溶岩台地の上には細長い格子状水系が分布している。

平野の水系をみると, 人為的に直線化した水系が認められる。鳥取平野の河川のうち, 千代川下流や新袋川・大路川・野坂川・有富川はそのような直線化した河川であるし, 大

井手用水もそうである。

山頂緩斜面の上には前輪廻の細長い谷が残存していることがある。弓河内高原や靈石山上にはこのような谷がみられる。このような谷と現在の谷とは遷急点でへだてられる。谷密度の分布をみると、山地は一般に谷密度が大であるが、山ろく地や溶岩台地は谷密度が小さい。また、台地や平地は谷密度が極めて小であることが明らかである。

(鳥取大学 文部教官 豊島 吉則)

V 傾 斜 区 分 図

傾斜区分図は5万分の1地形図上において、単位斜面ごとに2地点間の平均傾斜を計測し、その大きさを40°以上、30°~40°未満、20°~30°未満、15°~20°未満、8°~15°未満、3°~8°未満、3°未満の7段階に分けて表示した。この図をもとに本地域の地形の傾斜度の分布を概観することにする。最も急峻な傾斜40°以上の斜面は、図葉北西端の長尾鼻に良好に分布する。長尾鼻の東岸及び西岸は激しい海食作用によって海食崖が連続的に発達していて、傾斜は70°以上垂直のものも多い。これは安山岩の垂直な節理の性質に相当支配されている。酒ノ津付近の海食崖も40°以上の斜面を有しているが、小規模である。南部の中起伏山地にも局部的に急斜面がみられる。

傾斜30°~40°の斜面は中伏起山地に広く分布するほか、溶岩台地の斜面に分布することが多い。傾斜20°~30°の斜面は山地において最も普通に発達するもので、分布面積も極めて広い。15°~20°の斜面は、山ろく地にも相当ひろく分布している。

本図葉においても15°以上の斜面は林地として利用されている場合が多い。15°以下の緩斜面は、樹園地・草地などの他農地として利用される。

(鳥取大学 文部教官 豊島 吉則)

Ⅵ 開 発 規 制 図

本図葉内には雄大な鳥取砂丘、美しい湖山池、多数の温泉があるが、これら恵れた自然環境を高度に利用するため著しく開発が進められている。

この開発は、自然環境及び多数存在する遺跡、文化財等の保護との調和のもとに行う必要がある。

本図葉内における土地利用及び開発を制限する人為的要因は次のとおりである。

1 国 立 公 園

鳥取砂丘は海岸砂丘で起伏量は全国一で、すりばち状の起伏、砂簾などの独特な現象や風によって画かれる風紋の美しさで有名である。

この鳥取砂丘は、山陰海岸国立公園の公園区域の一部となっている。この公園区域は砂丘中心部の特別保護地区をはじめとして第2種特別地域、普通地域（海域）からなり、区域内の行為制限は自然公園法（昭和32年6月1日法律第161号）によって定められ、一定の手続きを経なければならない。

2 県 立 公 園

本図葉西南部に昭和29年4月1日鳥取県立公園条例に基づき指定された、三朝東郷湖県立自然公園の公園区域の一部がある。

この公園には、鳥取県立自然公園条例第7条に基づく制限を課す区域の決定がされていないが、区域内の行為については県に協議する必要がある。

3 鳥 獣 保 護 区

久松山周辺、湖山池周辺及び鷲峰山周辺が鳥獣保護区に設定されている。これらの区域内では巣箱、給餌台、給水器等を設置し鳥獣の保護繁殖が図られ、同時に鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律（大正7年4月4日法律第32号）によって鳥獣の捕獲が禁止されている。

特に久松山周辺の区域には特別保護地区を指定し、立木の伐採、工作物の設置、土地の形質等変更も禁止されている。

4 保 安 林

千代川及び天神川流域の上流地帯は水源の確保と流量調節等のため水源かん養保安林に、中流と下流地帯は、災害の防止を目的とした土砂流出防備保安林、土砂崩壊防備保安林に指定されており、また海岸線には飛砂防備保安林、魚つき保安林、防風保安林の指定

がなされている。

なお、保安林の法的規制は森林法（昭和26年6月26日法律第249号）により規定されている。

5 砂防指定地

砂防設備を必要とする土地、又は、治水上砂防のため一定の行為を制限しようとする土地は砂防指定地に指定されている。これら砂防指定地には、砂防えん堤、護岸などの砂防工事が実施されており、本図葉内には65河川が指定されている。

砂防指定地内の行為制限は、砂防法（明治30年3月30日法律第29号）によって定められている。

6 急傾斜地崩壊危険区域

急傾斜地崩壊危険区域は急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律（昭和44年7月1日法律第57号）に基づき指定されるもので本図葉内に14か所指定されており、急傾斜地の崩壊防止工事の実施並びに行為制限措置などが講ぜられている。

7 地すべり防止区域

本図葉内の地すべり防止区域は、鳥取市に2か所佐治村に1か所ある。地すべり防止区域は、地すべり等防止法（昭和33年3月31日法律第30号）によって地域の保全と民生の安定のための防止策が講ぜられるとともに、行為の制限がとられている。

8 海岸保全区域

本図葉内の海岸保全区域は総延長10,704mに及び海岸線のほぼ半分が指定されており、季節風の強い当地域における高潮、波浪などの海からの災害を防ぐため保安施設を設け保護している。これら指定区域内は海岸法（昭和31年5月12日法律第101号）により、海岸管理者である知事が行為制限を行っている。

9 国有林

本図葉内の国有林は、千代川支流の曳田川、佐治川、天神川支流の小鹿川及び河内川の水源地域並びに鳥取市近郊に存在している。これら国有林を借受け又は使用する場合には、国有林野法（昭和26年6月23日法律第246号）により、営林署長又は営林局長の承認を要する。

10 史跡、名勝、天然記念物及び埋蔵文化財

本図葉内には史跡、名勝、天然記念物として指定されているものが35か所あり、埋蔵

文化財包蔵地は 122か所ある。

これらについては文化財保護法（昭和25年 5月30日法律第 214号）鳥取県文化財保護条例（昭和34年12月25日鳥取県条例第50号）鳥取市文化財保護条例（昭和48年 4月 1日）及び気高町文化財保護条例（昭和47年12月19日）により保存及び活用のため必要な措置を講じており、その概要は次のとおりである。

(1) 許可を必要とするもの

史跡・名勝・天然記念物に関する現状変更等の行為の制限

- 国指定 文化庁長官（文化財保護法第80条）
- 県指定 県教育委員会（鳥取県文化財保護条例第34条）
- 市指定 市教育委員会（鳥取市文化財保護条例第10条）
- 町指定 町教育委員会（気高町文化財保護条例第 9 条）

(2) 届出を必要とするもの（文化庁長官）

- 埋蔵文化財の発掘（法第57条，第57条第 2 項）
- 遺跡の発見（法第84条）

(3) 環境保全地域における行為の制限禁止（法第81条）

なお、埋蔵文化財については県教育委員会で昭和47年度から分布調査を実施中であるので今後増加するものと考えられ、詳しいことについては教育委員会と協議する必要がある。

地域開発と文化財の保護については、全国的な問題として、国民の関心事となっているが、文化財保護の立場から開発との調整を十分とる必要がある。

このため次の施策を推進せねばならない。

- ア 文化財の防災保護対策を立て、その万全を期す。
- イ 文化財の一般公開等とおして、文化財保護思想の普及高揚に努め愛護運動を盛り上げる。
- ウ 埋蔵文化財の発掘調査及び記録の作成、民俗資料の調査、記録保存、有形資料の収集など調査研究の拡大強化を図る。 （鳥取県農林部農業指導課）

<資料提供機関>

衛生環境部自然保護課，農林部林務課，農林部造林課，農林部水産課，農林部耕地課，土木部河港課，土木部砂防利水課，教育委員会事務局文化課。

VII 土地 利用 現 況 図

本図葉は鳥取市，気高郡，八頭郡を主体としており，東伯郡三朝町，岡山県上斎原村の一部を包括している。

1 農 地

農地について利用現況を述べると次のとおりである。

(1) 水 田

水田は千代川，河内川，日置川とこれに関係する小河川の流域に分布する沖積土が主体である。

沖積土水田は粗粒灰色土じょう，灰色低地土じょう，細粒灰色土じょうが大半を占め，次いで多湿黒ボク土じょう，細粒グライ土じょうであり，山沿いの水田，谷間に細長く連なる水田を除き，各河川流域の水田は排水良好で，農作物生産基盤としての条件は良好で，県東部地域の穀倉地帯であり，裏作物導入に適している。特に粗粒灰色土じょう，灰色土じょう，黒ボク土じょう地は裏作の最適地であるが，ほとんどが水稲単作でわずかに粗粒灰色土じょう，灰色低地土じょう地帯にいちご，メロン，たまねぎ，牧草が栽培されている。水稲の栽培型と土じょう型の関連は，粗粒灰色低地土じょう，黒色土じょうの漏水の甚しい地帯と排水不良のグライ土じょう，低位泥炭土じょう地を除いては直播栽培に適する。したがって鳥取市周辺の灰色低地土じょうと粗粒灰色土じょうの一部に直播栽培が行われている。

昭和50年度の稲作の実態によると，本図葉内の稲作の作型は

直播栽培 10.9 % 機械植 60.6 % ベーパーボット栽培0.2 %
手植 28.3 %で昨年に比し機械植が次第に増加しつつある。

(2) 畑

本図葉内の畑地は砂丘未熟土じょう（海岸砂地）黒ボク土じょう（気高郡陸逢台地，八頭郡佐治村外）かっ色森林土じょう（山地及び裾野）に大別される。

畑地面積の 50.4 %は普通畑で，そのうち砂丘未熟土じょう畑が大半を占め，気高町浜村一帯ではたばこ（8～9割）ぶどう，きゅうり，トマト，花木，花卉，鳥取市湖山の砂地ではかん水施設が完備し，たばこ，いちご，さつまいも，すいか，キャベツ，だいこん等，岩美郡福部村の砂地では“らっきょう”が栽培され東部での主要な

特用作物、そさい栽培地で高度に土地が利用されている。

黒ボク土じょう畑ではたばこ、だいこん等が、かっ色森林土じょう地帯ではしょうが、そさいが栽培されている。

樹園地は函葉内畑の 48.5 % でほとんどがかっ色森林土じょうで、一部に黒ボク土じょうがある。主としてなしが、一部かき（八頭郡河原町佐貫）が山裾の傾斜地に栽培されている。したがって函葉内畑の種目別割合は

普通畑 50.5 % 樹園地 48.5 % 桑畑 0.8 % その他 0.2 %

で普通畑の主要地は砂丘未熟土じょう、樹園地は気高郡青谷町、八頭郡河原町、佐治村に集団している。

2 林 地

本函葉の南西部の岡山県との県境は、三国山（1,252m）、高鉢山（1,204m）鷲峰山（921m）を中心とする国有林に接し、国有林の大部分はスギの人工林と広葉樹の天然林である。

民有林は海岸部から平野部そして山岳部まで広く分布し、海岸部を除く地域に分散して分布しているスギの人工林と、全域に広く分布している広葉樹天然林が主体をなしている。マツの人工林は海岸部一帯に分布し、天然林は千代川の東側で中央部及び北西部にある程度の団地として分布しているほか、各地域に点在している。

保安林は水源かん養保安林が大部分で、主に本函葉の南西部に指定されている。中央部以北は、土砂流出防備保安林、土砂崩壊防備保安林が広く点在し、海岸線沿いの林地には、飛砂防備保安林、防風保安林、魚つき保安林が帯状に指定されている。

3 都 市 ・ 村 落

鳥取市街の大部分は本函葉内にある。また、湖山池周辺、日本海沿岸、千代川沿いには村落が発達している。

（鳥取県農業試験場 西尾 一雄）

（鳥取県農林部林務課 角脇 智）

あ と が き

- 1 本調査は、国土調査法（昭和26年6月1日法律第180号）第5条第4項の規定により昭和50年6月7日国土調査の指定を受け、国土庁の都道府県土地分類基本調査費の補助金により、鳥取県が調査主体となって実施したものである。
- 2 本調査成果は、国土調査法施行令第2条第1項第4号の2の規定による土地分類基本調査図及び土地分類基本調査簿である。
- 3 調査の実施、成果の作成関係機関及び関係担当者は下記のとおりである。

指 導 国土庁土地局

総 括 鳥取県農林部農業指導課

課 長 西尾 昭富

〃

課長補佐 美川 季晴

企画調整編集

〃

〃 小谷 三男

〃

主 任 池内 孝明

地形調査 鳥取地学調査会鳥取大学教育学部

文 部 教 官 豊島 吉則

表層地質調査

〃

〃 赤木 三郎

〃

〃 豊島 吉則

鳥取地学調査会倉吉市立社小学校

教 諭 佐治 孝次

土じょう調査 鳥取県農業試験場

土じょう保全科長 西尾 一雄

鳥取県林業試験場

研 究 員 平尾 勝男

土地利用現況調査 鳥取県農林部林務課

課長補佐 角脇 智

鳥取県農業試験場

土じょう保全科長 西尾 一雄

開発規制調査 鳥取県農林部農業指導課

主 任 池内 孝明

- 4 協力機関は次のとおりである。

鳥取県企画部企画課 鳥取県企画部統計課 鳥取県衛生環境部自然保護課

鳥取県農林部林務課 鳥取県農林部造林課 鳥取県農林部水産課

鳥取県農林部耕地課 鳥取県土木部河港課 鳥取県土木部砂防利水課

鳥取県教育委員会事務局文化課

1976年3月 印刷 発行
千代川流域地域
土地分類基本調査
鳥取北部・鳥取南部

編集発行 鳥取県農林部農業指導課
鳥取市東町一丁目220

印刷 緑川地図印刷株式会社
東京都墨田区吾妻橋二丁目18番3号